

平成28年1月

各位

長野信用金庫

6次産業化に関するアンケート調査のご回答の御礼と実施結果について

日頃は、長野信用金庫に格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当金庫では、お取引先の「6次産業化」に関するご意向をお伺いいたしたく、昨年11月から本年1月にかけて「6次産業化に関するアンケート調査」を実施させていただきました。アンケートは、当金庫全41店舗のお客さまに広くご協力いただき510名の方にご回答をいただきました。お客さまのご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

本アンケートの回答を取りまとめましたところ、以下のとおりとなりましたので、ご案内させていただきます。

当金庫におきましては、今後、本アンケートの結果を踏まえお取引先の6次産業化・農商工連携に関して、セミナーの開催、ビジネスフェアの開催、行政機関・外部専門機関・外部専門家との連携による取り組みなど、具体的なお手伝いをさせていただきますと考えております。

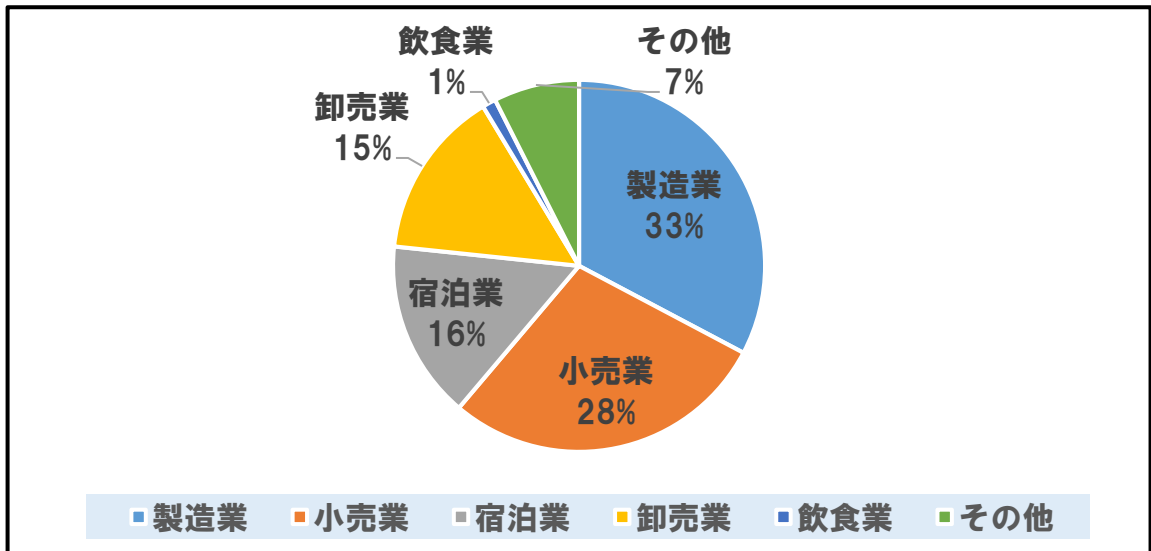
また、今後6次産業化・農商工連携に関しましては、お客さまのご意見・ご要望をお聞きしながらお役に立てる取り組みをご案内したいと考えておりますので、当金庫へお気軽にご相談くださいますようお願い申し上げます。

6次産業化に関するアンケートへのご協力について御礼申し上げるとともに、今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

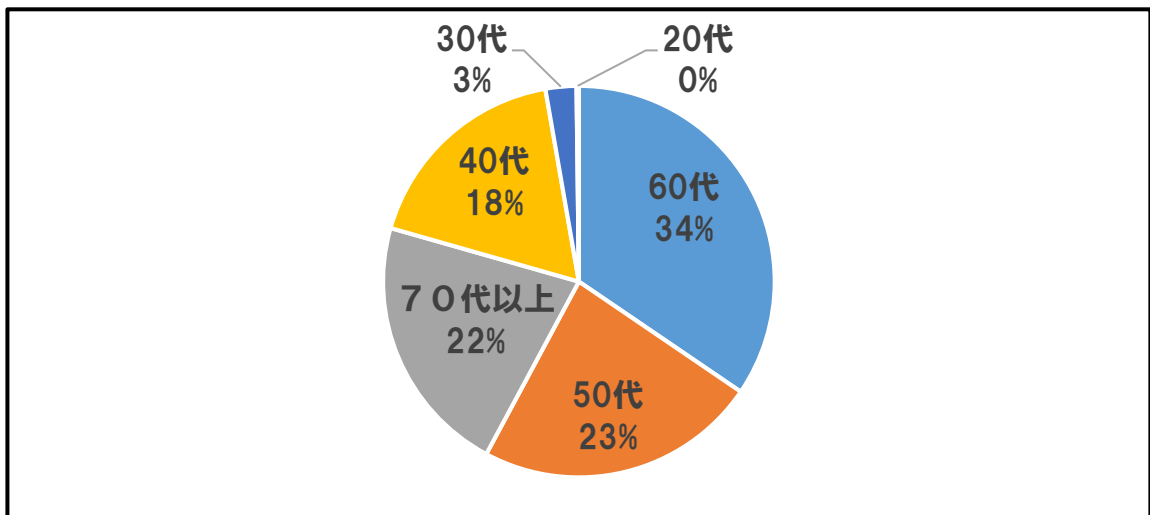
1. お客様の概要

長野信用金庫とお取引を頂いています、510先(商工業事業者:499先・農業事業者:11先)のお客様からのご回答に基づく調査結果です。

(1) 業種



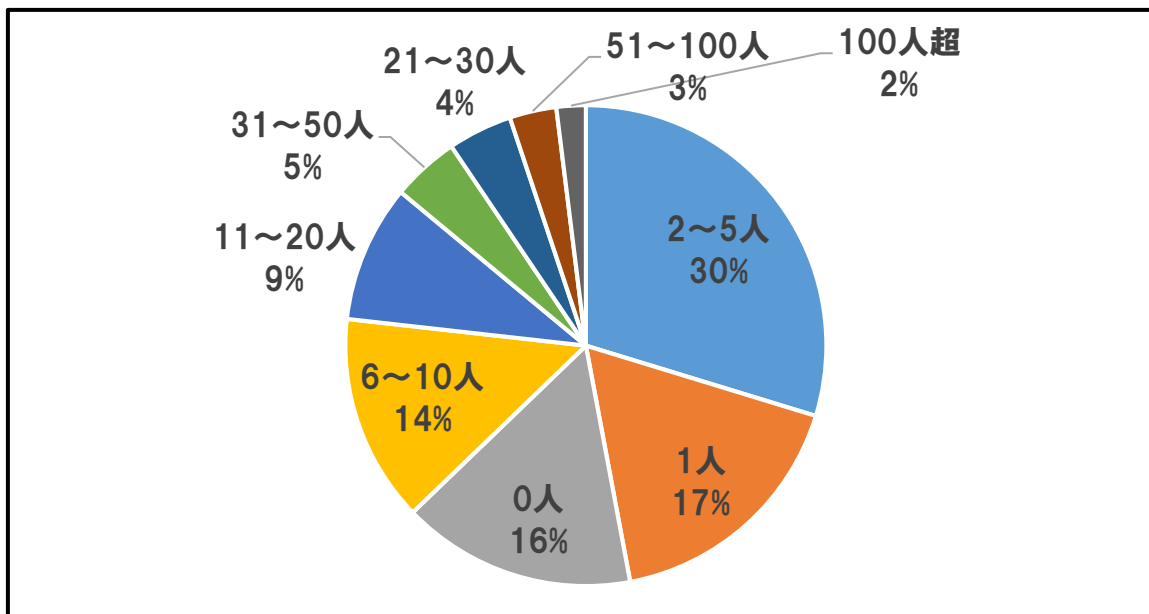
(2) 代表者の年齢



(3) 売上高

売上高	件数	割合
1,000万円以下	71	13.9%
1,000万円超～5,000万円	190	37.3%
5,000万円超～1億円	68	13.3%
1億円超～5億円	125	24.5%
5億円以上	56	11.0%
合計	510	100%

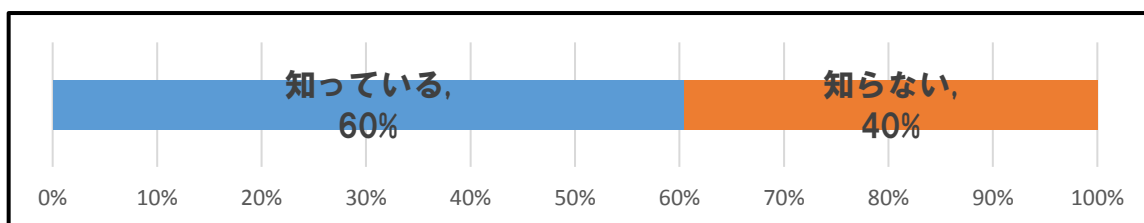
(4) 従業員数（役員・パート・アルバイト除く）



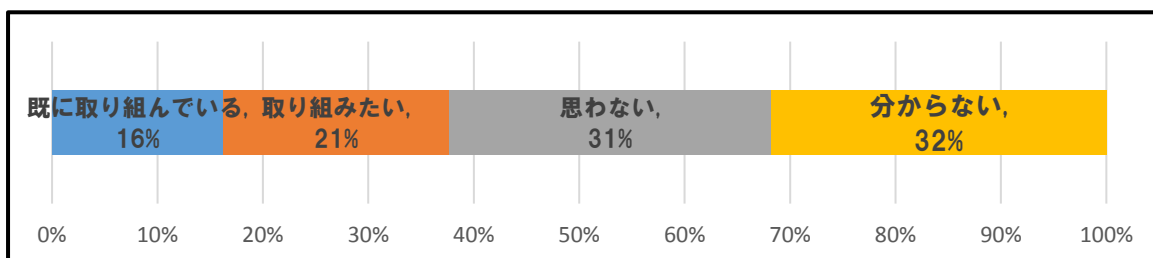
2. 6次産業化と農林漁業者との連携について

「6次産業化」という言葉を知っているお客さまは、60%です。
この内、既に農林漁業者と連携されているお客さまが、16%です。今
後、連携に取り組みたいと思われているお客さまが、21%です。
また、現段階では、「連携したと思わない」、「わからない」と、ご回答し
ているお客さまは、それぞれ約30%です。

(1) 6次産業化の認識について

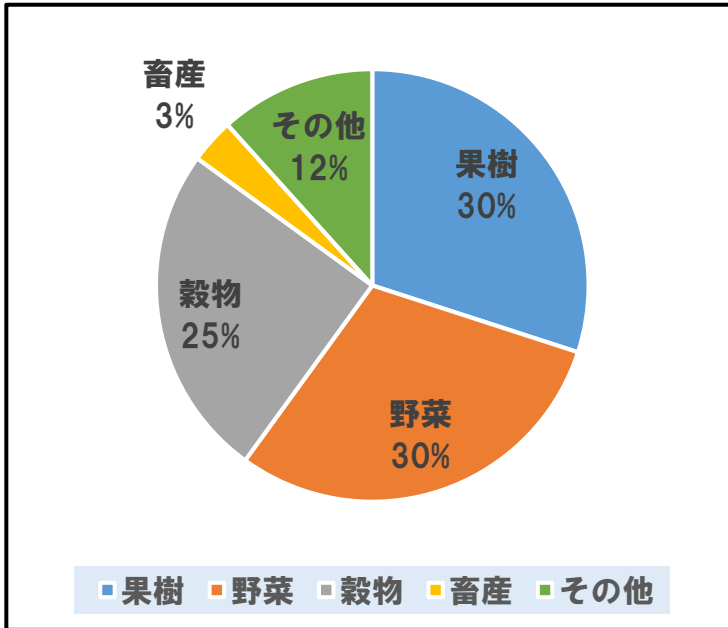


(2) 農林漁業者との連携の取り組みについて (6次産業化を知っている方にご回答)



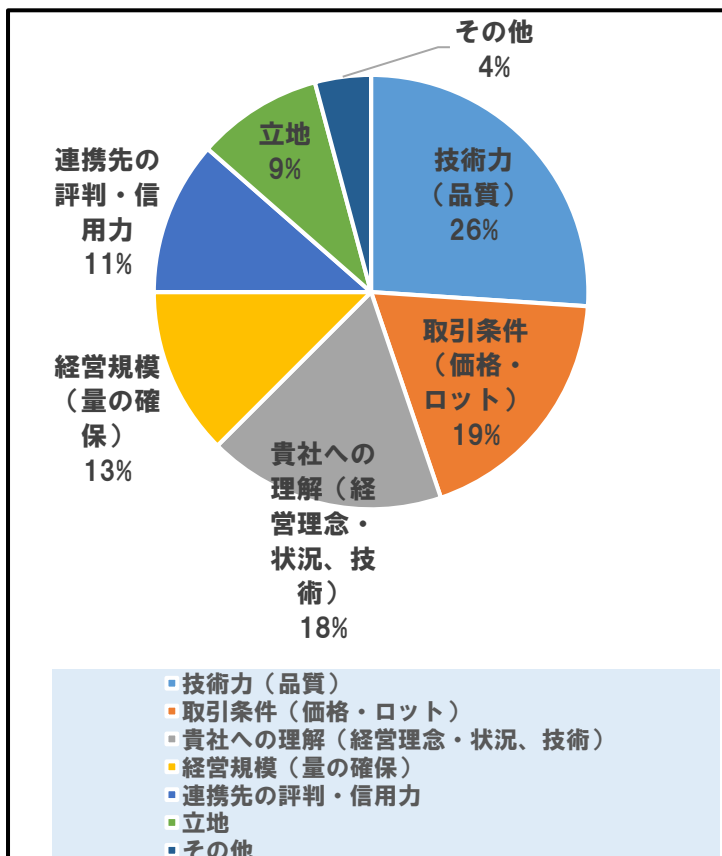
3. 6次産業化への取り組みについて (既に農林漁業者と連携をされている事業者)

(1) 6次産業化に取り組んでいる農水産物



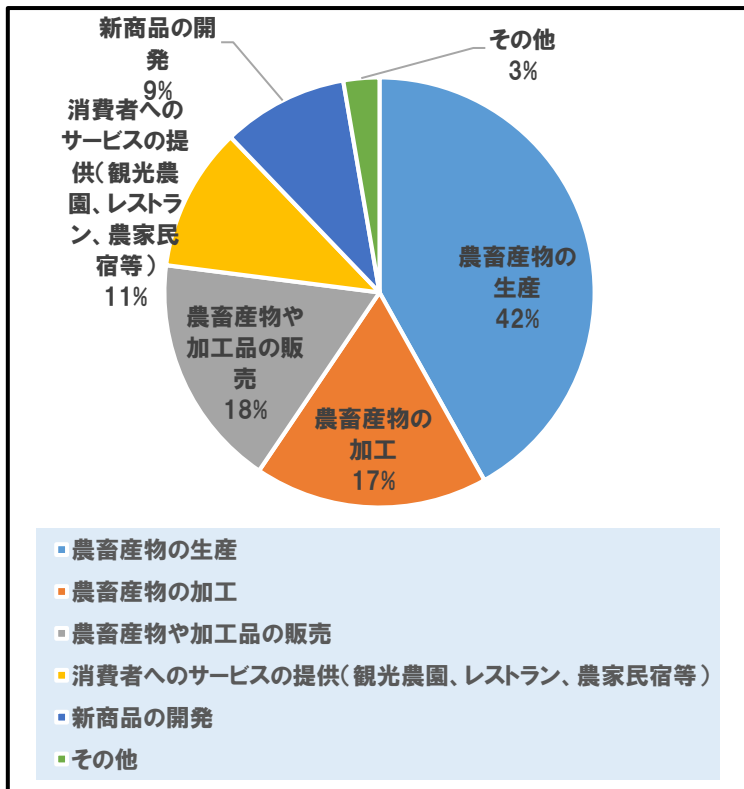
6次産業化に取り組んでいる農水産物は、野菜30%、果樹30%、穀物25%となっています。全国の総合事業化計画の認定を受けた事業者の割合と比較すると、果樹、穀物での取り組みが多くなっています。

(2) 連携先を選定した理由 (3つまで選択)



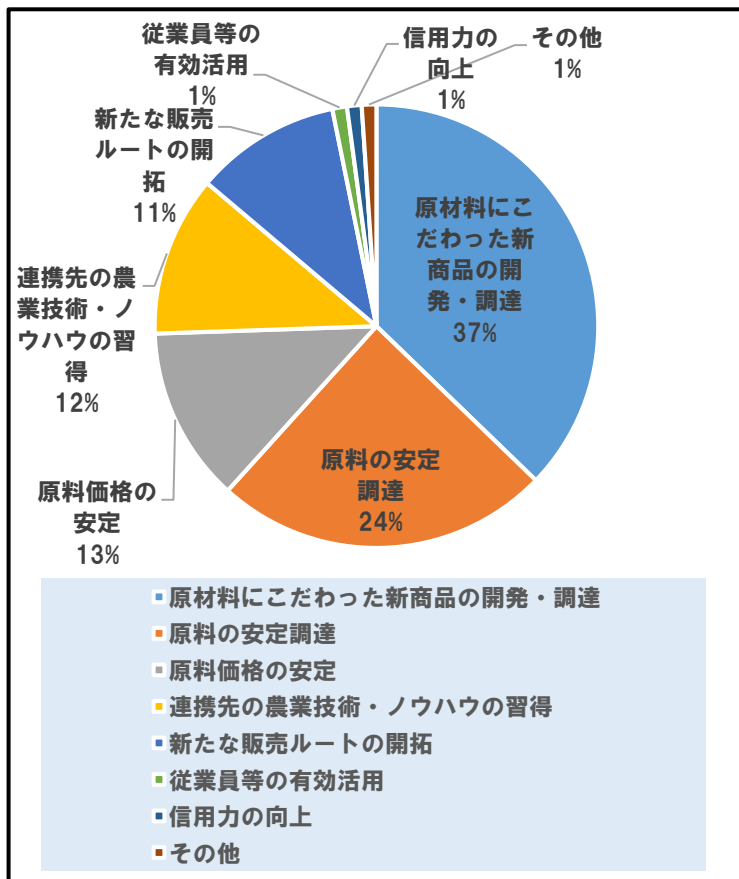
連携先を選んだ理由は、必要な品質を生産できる「技術力」が26%と最も多く、価格・ロットなどの「取引条件」、経営理念・経営状況・技術などの「自社への理解」を挙げる回答が続いています。

(3) 連携先の役割 (3つまで選択)



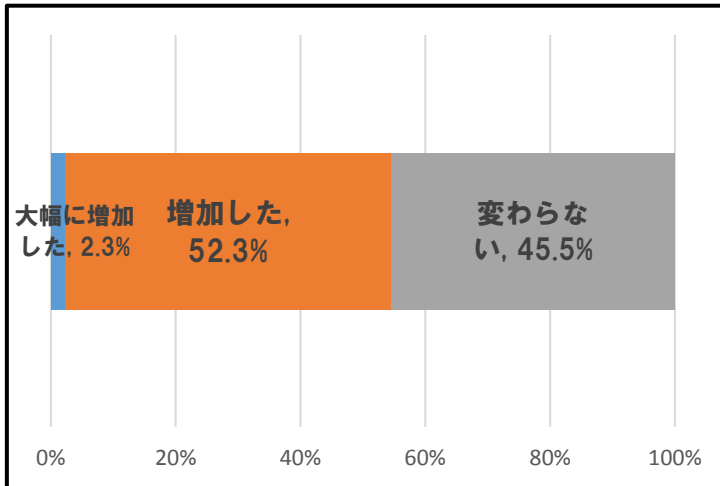
連携先の役割は、「農畜産物の生産」が42%と最も多く、「農畜産物の加工」、「農畜産物や加工品の販売」を挙げる回答が続いています。

(4) 連携することのメリット (3つまで選択)



「原材料にこだわった新商品の開発・調達」が37%と最も多く、「原料の安定調達」を挙げる回答が続いています。

(5) 連携による売上の変化

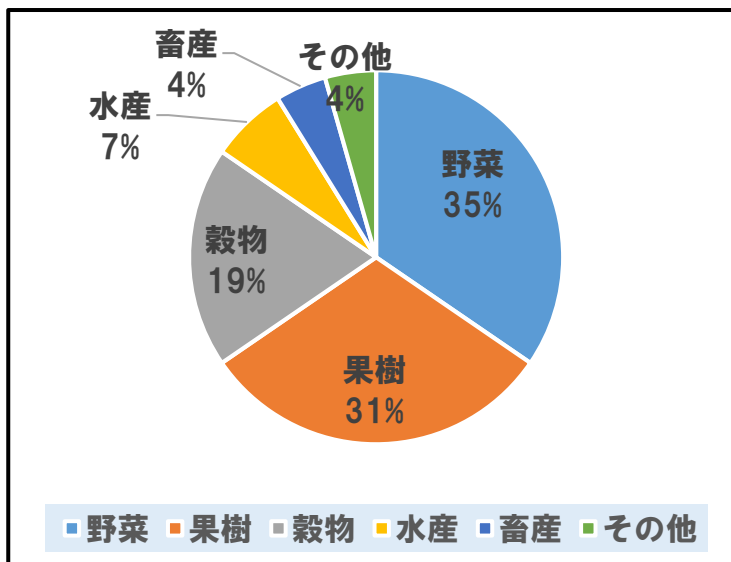


連携したことで売上が、「大幅に増加した」、または「増加した」とする回答が55.5%と、半数以上のお客様が、増収に結び付いています。

一方、「売上高が減少した」とする回答は、ございませんでした。

4. 6次産業化への取り組みについて (これからの農林漁業者と連携に取り組みたい事業者)

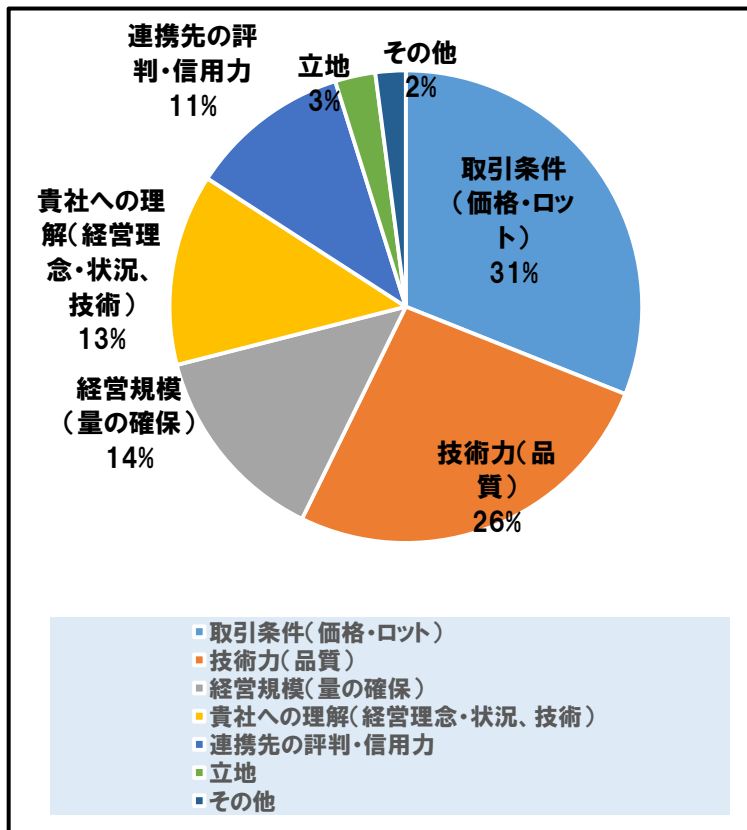
(1) 6次産業化に取り組みたい農水産物



6次産業化に取り組みたい農水産物は、野菜35%、果樹31%、穀物19%となっています。

既に取り組んでいる方と比べて、野菜の割合が高く、また水産物での取り組みを考えている方もいます。

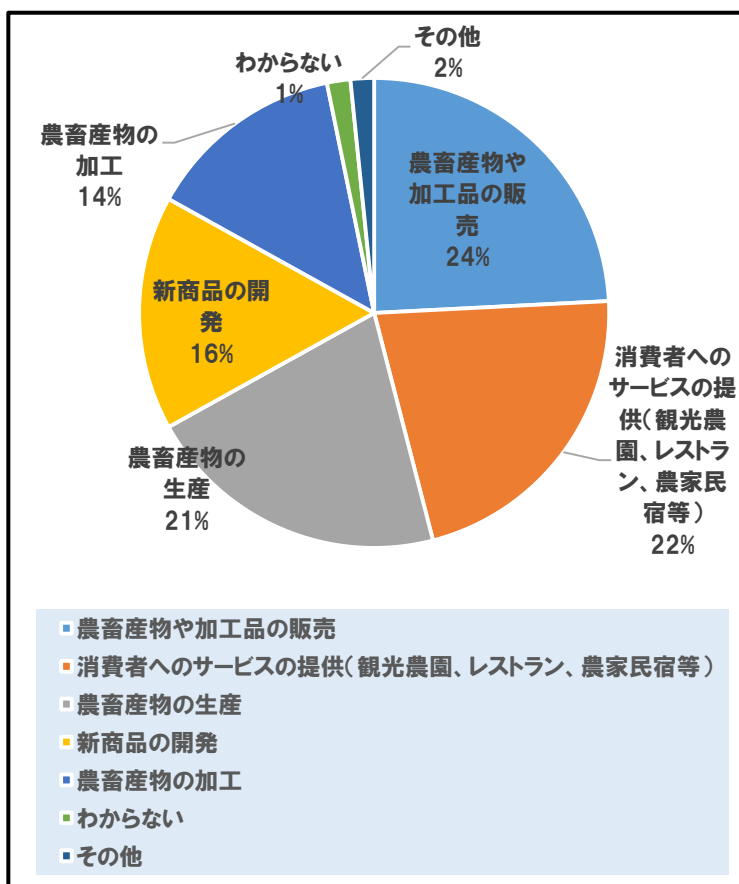
(2) 連携先として選定する理由 (3つまで選択)



連携先として選びたい理由は、価格・ロットなどの「取引条件」が31%と最も多く、必要な品質を生産できる「技術力」が26%となっています。

既に取り組んでいる方と比べて、経営理念・経営状況・技術などの「自社への理解」を挙げた回答が少なくなっています。

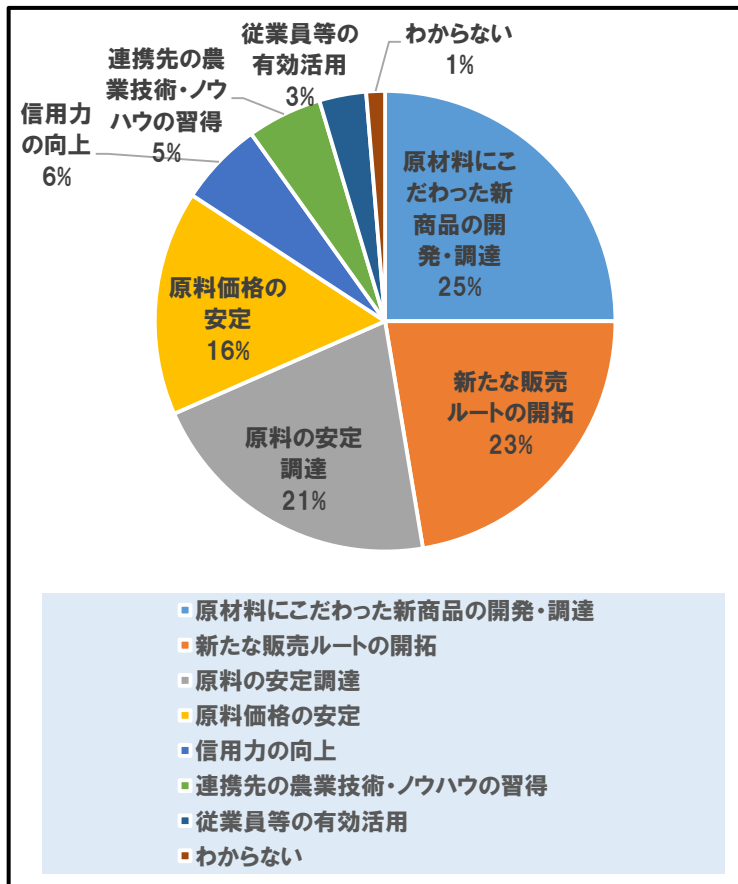
(3) 連携先の役割 (3つまで選択)



連携先の役割として期待していることは、「農畜産物や加工品の販売」が24%、観光農園、レストラン、農家民宿等の「消費者へのサービスの提供」が22%、「農畜産物の生産」が21%となっています。

既に取り組んでいる方と比べて、販売やサービスの提供に関する項目が高くなっています。

(4) 連携することのメリット (3つまで選択)

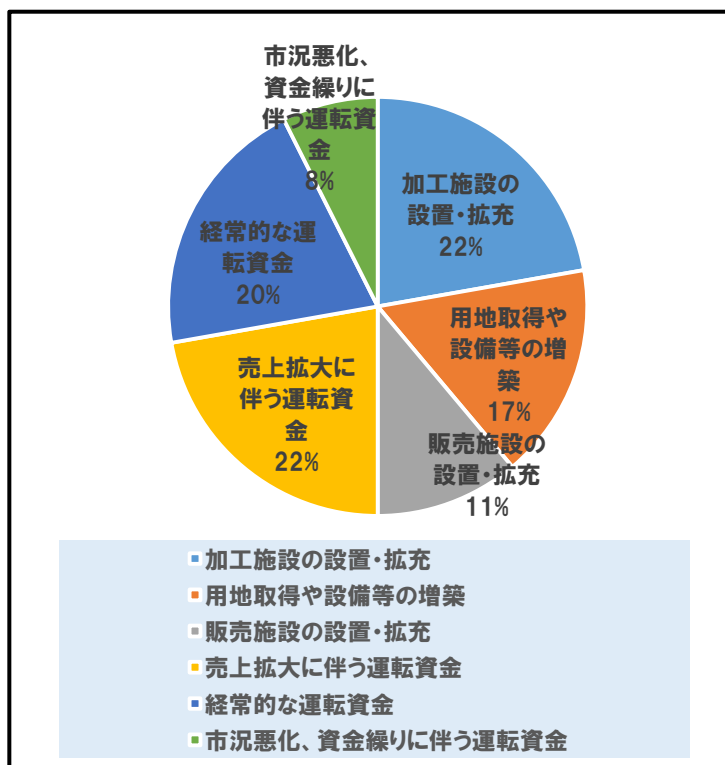


連携することで得られると考えているメリットとしては、「原材料にこだわった新商品の開発・調達」が25%と最も多く、「原料の安定調達」が21%となっています。

これらの項目は、既に取り組んでいる方と比べて、その割合は低くなっています。

一方、「新たな販路ルートの開拓」が23%と、既に取り組んでいる方と比べて、その割合が高くなっています。

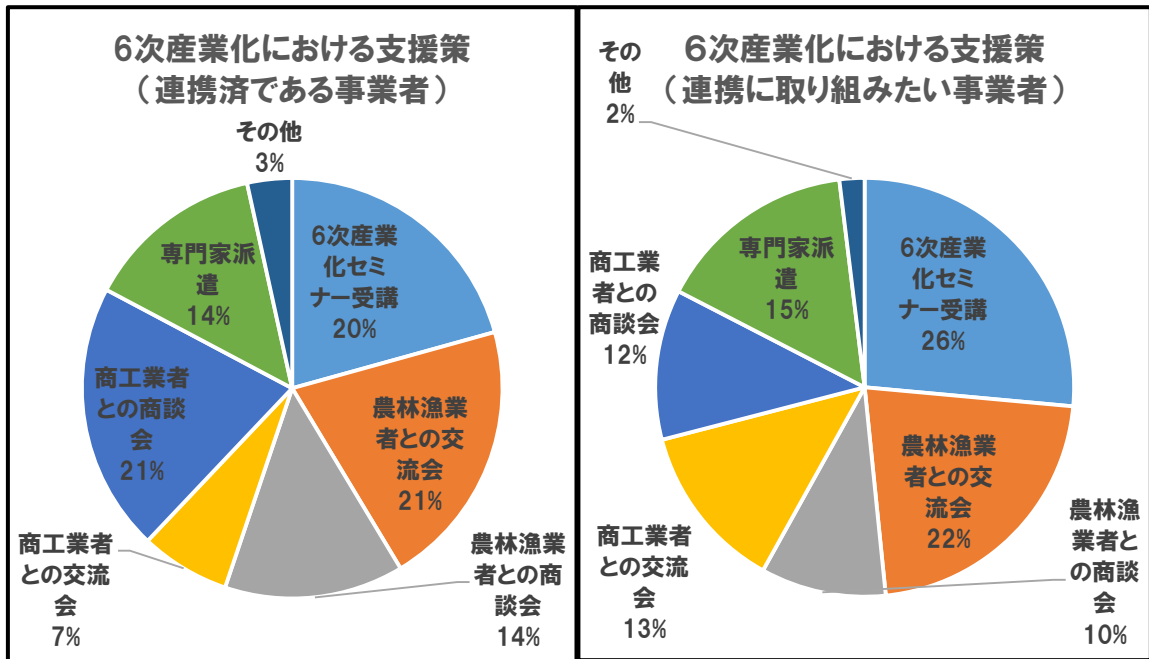
5. 今後の必要資金について (既に農林漁業者と連携に取り組まれている事業者)



既に連携に取り組まれている方の、今後の必要資金については、運転資金と設備資金の割合が50%となっています。

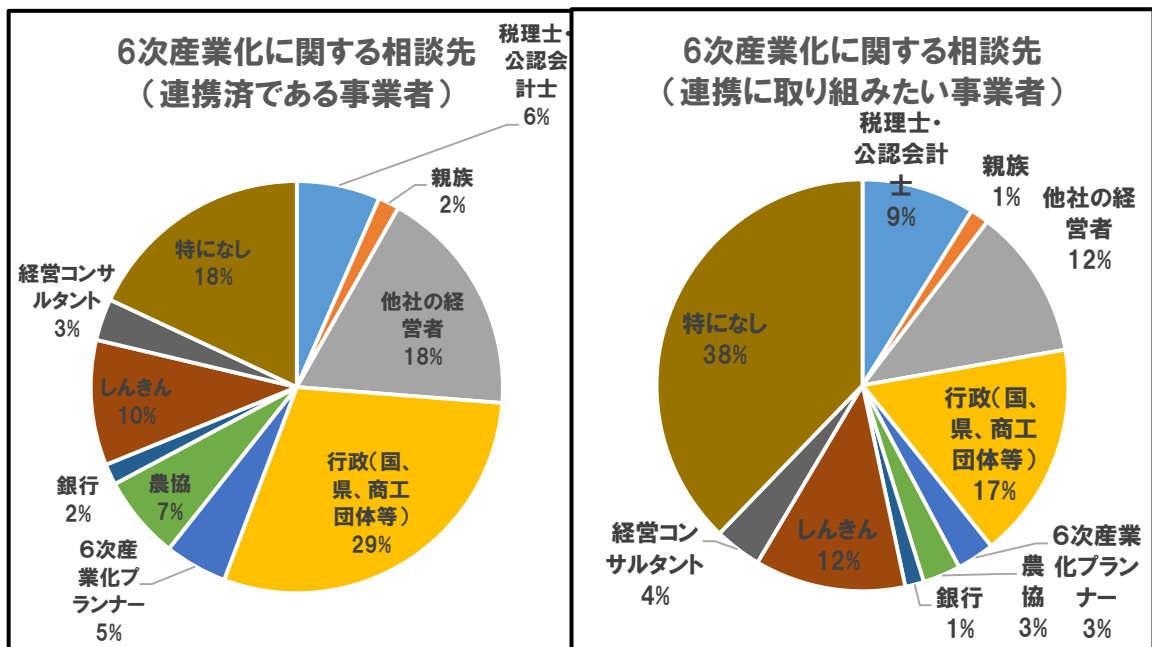
設備資金では、「加工施設の設置・拡充」が22%と最も多く、運転資金では、「売上拡大による増加運転資金」が22%と最も多くなっています。

6. 6次産業化における希望する支援策について (既に取り組まれているならびにこれから取り組みたい事業)



既に連携に取り組まれている方、これから連携に取り組まれない方ともに、「商談会」「交流会」に関する支援を合わせると約60%となり、多くのお客さまがマッチング支援を期待しています。

7. 6次産業化に関して相談をしている先について (既に取り組まれているならびにこれから取り組みたい事業者)



既に連携に取り組まれている方、これから連携に取り組まれない方も、国・県・商工団体等の「行政」、「6次産業化プランナー」による公的機関への相談割合が高くなっています。

既に連携に取り組まれている方は、「公的機関等」と「他社の経営者」への相談が、これから連携に取り組まれない方より高い割合となっています。

「地域金融機関」の相談割合の20%弱程になっています。

長野信用金庫では、今回のアンケート調査の回答結果を受け、関係機関と連携をしながら、6次産業化支援、農商工連携支援などお役にたてる取り組みを進めて参りますので、お気軽にご相談いただけますようお願い申し上げます。

ご協力ありがとうございました。